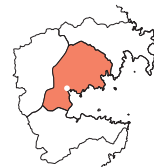


患者さんの命を守れ！ 寒さと暗闇の中で希望をつなぐ ～公立志津川病院～



▲患者たちを5階会議室に運び、必死の看護が夜通し続けられた。

公立志津川病院は9つの診療科、126病床を有する地域の中核病院だった。4階建ての旧館と5階建ての新館からなり、3、4階が入院病床だった。入院していた患者の多くが高齢で歩行困難だった。

当初の津波予想は6 m だったため、水位が上がっても3階以上にいれば大丈夫と職員たちは考えていたが、津波警報が10mに引き上げられた直後、志津川地区を高さ約16mの津波が襲った。ベッドごと入院患者が流されていった。入院患者109人のうち63人と職員4人が津波の犠牲になり、7人の患者が低体温症・低酸素症で亡くなった。

暗闇と厳しい寒さの中、津波と余震は何度も繰り返した。ずぶ濡れの生存者と避難者の命を守るため、職員たちは「手をつないで」「立ち上がって」と声をかけ続けた。